

令和7年度第2回岡山県立倉敷まきび支援学校学校運営協議会 実施要項

1 目 的

学校の抱える諸問題の解決や児童生徒の望ましい成長をより一層支援するため、学校と地域が学校運営の目標/ビジョンを共有し、ともに力を合わせて学校運営に取り組む。

2 日 時

令和7年10月14日(火) 9時30分～11時30分

3 場 所

岡山県立倉敷まきび支援学校 大会議室

4 構成委員

〈学校運営協議会委員〉

守屋 弘志	(真備船穂商工会会長 箭田 SS(有)守屋石油 社長)・・・会長
中根 征也	(くらしき作陽大学子ども教育学科 教授)
薬師寺 真	(岡山県倉敷児童相談所所長) 子ども発達支援課長 中江 倫之
松本 康美	(ハローワーク総社所長)
夏井 将行	(ももぞの学園施設長)
川崎 陽平	(真備地域生活支援センター所長)
門野 辰彦	(真備船穂商工会青年部長 田村モーターサービス代表)
土屋 瞳	(箭田地区まちづくり推進協議会)
藤原 能成	(倉敷市立箭田小学校長)
桑原 正	(倉敷市立真備中学校長)
百本 恵子	(箭田地区まちづくり推進協議会、地域コーディネーター)
小倉 千保子	(本校PTA会長)・・・欠席
金島 一顯	(倉敷まきび支援学校長)・・・副会長

〈学校教職員〉

渡辺 琢也	(事務部長)、	中園 陽子 (副校長)
三竿 香織	(小学部教頭)	
滝沢 万紀子	(中学部主事・主幹教諭)	
大原 広誉	(高等部教頭)	
妹尾 美樹	(B 部門教頭)	
恩村 雅美	(総括教務・主幹教諭)	
長田 恵子	・	黒川 由美 (コーディネーター・指導教諭)
小山 洋司	(進路指導主事)、	藤井 昂大 (進路係)、
		杉 裕貴紀 (生徒指導主事)

5 内 容(進行予定時間) 司会:副校長

9:30～ 開会挨拶(校長)

9:35～ 学校評価について(主幹教諭)

9:40～ 梶谷淳子先生紹介(校長)

9:43～ 学校運営協議会のあり方・地域学校協働活動について

(地域学校協働活動アドバイザー:梶谷 淳子先生)

10:15～ キーワード「地域とともにある学校づくり」についてグループ協議

10:45～ 休憩(コーヒー *高等部生徒による接遇) *生活コース 製菓班

10:55～ グループ報告(各3分)・意見交換

11:25～ 閉会挨拶(運営協議会会長)

11:30 解散

6 グループ協議内容(前期の反省と今後の取組について)

地域とともにある学校づくり

(1)「地域学習」「地域連携」・・・地域資源を学びに生かすために

(2)地域貢献・・・子どもたちの活躍が、地域の方の笑顔につながるように

(3)地域の方とともに活動

就労:職安所長(松本)、企業(守屋、門野)、進路指導主事・係、高教頭

○地域で働く(自己有用感の高まり 生徒への理解)

地域型実習、地域行事等へのボランティア、校外販売 等

環境・安全:人権(土屋)、地域コーディネーター(百本)、事務部長、

中部主事、B部門教頭、主幹教諭、生徒指導主事

○安全・安心な街に(地域住民の方と一緒に)

あいさつ運動、避難所体験、

環境美化のボランティア活動 スポーツ交流 等

福祉:児相子ども発達支援課課長(中江)、ももぞの学園施設長(夏井)

PTA会長(小倉)・・・欠席

地域生活支援センター所長(川崎)、小教頭、指導教諭、副校長

○特別支援教育のセンター的機能として(子育て支援)

まきびカフェ、ホッと相談会 等

教育:大学教授(中根)、箭田小校長(藤原)、真備中校長(桑原)、校長

○交流・協同学習

(スポーツや芸術活動を通して)学校間交流 等

7 次回予定

令和8年2月24日(火)

岡山県立倉敷まきび支援学校 第2回 学校運営協議会 議事録

開催日：令和7年10月14日(火)
会場：大会議室

開会あいさつ（金島校長）

一年の半ばが過ぎ、修学旅行や校外学習、高等部の実習などを通して学習を深めているところである。月末に滋賀県で開催される障害者スポーツ大会の全国大会には、本校生徒も出場する予定である。活躍を期待したい。3学期からスクールバスが8台に増便されるが、それに向けて保護者への周知や協力の依頼、駐車場の確保や運行表の調整などを行っている。

今回の学校運営協議会では、コミュニティ・スクールについて委員の皆様と一緒に考えたい。梶谷先生の講演、その後のグループ協議で本校のコミュニティ・スクールについて捉え直しを図り、新たな一歩につなげるようにしたい。

学校評価について

3本の軸を基に作成したことや、昨年度課題となった項目を意図が伝わる表現にしたことなどを説明し、了承された。

講演「学校運営協議会のあり方・地域学校協働活動について」

講師：梶谷淳子先生（地域学校協働活動アドバイザー）

〈変遷〉本校は令和3年にコミュニティ・スクールの指定を受け、開校当時から設置されていた「地域学校協働本部」を基に学校運営協議会を立ち上げた。コミュニティ・スクールは、学校と地域で目標やビジョンを共有し、一体となって学校運営に取り組むことができる仕組みである。本校の学校運営協議会の委員のほとんどは、真備地区の方である。就労、福祉、教育など様々な分野から選出されている。

〈本校の活動実績例〉田植え・稲刈り体験、読み聞かせ、作業学習製品の仕上げ、防災教育（避難訓練、避難所体験）など

〈課題〉学校：ほとんどの教職員が学校運営協議会に直接関わることが少ない。学校運営協議会について理解を深め、全員がそれぞれの立場で考え、関わりを持つようになることが課題である。

委員：時には「批判的な友人」となり、客観的な視点から建設的で率直な意見を期待したい。

〈展望〉「地域の中で」「地域とともに」「地域のために」をキーワードに、今後も地域学校協働活動を展開していくことで意義がさらに深まることが期待できる。

グループ協議「地域とともにある学校づくり」

就労班

地域型実習や現場実習では、地域の企業に大変お世話になっている。引き続き、実習先の開拓に努める。また、進路や就労に関することを小・中学部へも周知していきたい。

福祉班

まきびカフェは保護者同士の横のつながりを作るという点も本来の目的である。研修の色が強くなると本来の目的が弱くなってしまうため、それも考慮して今後の内容を検討したい。また、他の行事に合わせて開催するなど、時期や時間帯も検討して保護者が気軽に参加しやすい形も探していきたい。

ホッと相談会について、今までの相談内容を一覧にして周知に活用したい。保護者はもちろん、教職員にも具体的にこういった相談の場なのかを周知できれば、参加につながりやすいのではと考えている。

環境・安全班

協議の中で、地域に様々な得意分野をもつ方がいらっしゃるということが分かった。教職員に地域の方と協働してできる活動例や実績などを提示し、地域資源の活用につなげたい。

教育班

学校運営協議会（児童生徒や卒業生の参加）、学校間交流（直接交流だけではない交流の方法）、防災（避難方法について情報交換）の観点で協議を行った。他の校種で行われている取り組みについて知ることができ、今後の教育活動の参考にしたい。

閉会あいさつ（会長）

まびふれあい公園や真備町の特産物である孟宗竹など、地域資源を活用した学習を一緒に考えていきたい。